

## Helicobacter pylori 菌除菌後に活動期へ 移行した全結腸型潰瘍性大腸炎の1例

なが	み	はる	ひこ <sup>1)</sup>	おお	たに	じゅん <sup>2)</sup>	うえ	だ	こう	じ	
長	見	晴	彦 <sup>1)</sup>	大	谷	順 <sup>2)</sup>	植	田	宏	治 <sup>2)</sup>	
す	とう	いち	ろう <sup>2)</sup>	すえ	みつ	ひろ	や	お	つか	あき	お
須	藤	一	郎 <sup>2)</sup>	末	光	浩	也 <sup>2)</sup>	大	塚	昭	雄 <sup>2)</sup>
の	さか	せい	し <sup>1)</sup>	お	だ	てい	じ <sup>3)</sup>	ひら	はら	のり	ゆき <sup>4)</sup>
野	坂	誠	士 <sup>1)</sup>	織	田	禎	二 <sup>3)</sup>	平	原	典	幸 <sup>4)</sup>
かわ	ばた	やす	なり <sup>4)</sup>	や	の	せい	じ <sup>4)</sup>	た	なか	つね	お
川	畑	康	成 <sup>4)</sup>	矢	野	誠	司 <sup>4)</sup>	田	中	恒	夫 <sup>4)</sup>

キーワード：潰瘍性大腸炎，H.P 菌除菌，緩解期から活動期への移行

### 要 旨

Helicobacter pylori (H.P) 菌除菌後4日目に潰瘍性大腸炎の緩解期から活動期へ移行した38歳，男性症例を経験した。十二指腸潰瘍の既往歴があり H.P 菌陽性によりランソプラゾール 60 mg/日，アモキシシリン 1,500 mg/日，クラリスロマイシン 400 mg/日の3剤併用療法による除菌後4日目に下血，腹痛，発熱症状が出現した。ステロイド療法を試みたが治療抵抗性で結果的に腹腔鏡補助下大腸全摘術，空腸パウチ直腸吻合術を施行した。H.P 菌除菌療法後に潰瘍性大腸炎が増悪した症例は極めてまれで2002年の山口大学からの報告のみで，特にステロイド療法抵抗性で外科的治療を要した症例は文献上自験例が本邦第1例目である。また2006年に順天堂大学から潰瘍性大腸炎の悪化症例の原因菌は大腸内の Fusobacterium varium であり，AMPC，Tetracyclin，Metronidazole 《ATM療法》が劇的に奏効したとの報告があり，潰瘍性大腸炎再燃の原因として Fusobacterium varium 感染説が提唱された。これに対して自験例は何らかの腸内細菌により感染環境下にあったが，H.P 菌除菌を行ったことにより腸管内の細菌感染力が低下し，感染によって抑制されていた腸管内アレルギー反応が逆に賦活化され潰瘍性大腸炎の活動期へ移行したと考えられ，潰瘍性大腸炎のアレルギー説を示唆する症例と思われた。近年，本邦でも欧米と同様に炎症性腸疾患の罹患率が増加してきている。従って安易な H.P 菌除菌は潰瘍性大腸炎を始めとした炎症性腸疾患の再燃を招く恐れがあり，H.P 菌除菌時の有害事象として認識しておく必要があると考えられた。

Haruhiko NAGAMI et al.

1) 長見クリニック 2) 公立雲南総合病院外科

3) 島根大学医学部循環器呼吸器外科

4) 島根大学医学部消化器総合外科

連絡先：〒699-1311 雲南市木次町里方633-1

### はじめに

現在，上部消化管潰瘍及び高齢者萎縮性胃炎，胃癌発症に深く関与している Helicobacter pylori